

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503544		
法人名	社会福祉法人 パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 参番館		
所在地	札幌市白石区平和通2丁目南6-28		
自己評価作成日	平成 25年 1月 8日	評価結果市町村受理日	平成25年2月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503544-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かしこまることなく、家庭的な雰囲気の中でゆったりとした時間を過ごしていただきたく思っております。ご入居者様や職員がお互いに協力し、助け合うことで絆を深め、一緒に生きていることを感じていただけるようお手伝いをさせていただきたく思っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階		
訪問調査日	平成 25年 1月 23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR白石駅近くの、商店街の一角にある2ユニットのグループホームです。建物は4階建てで、1、2階が介護付き有料老人ホーム、3、4階がホームとなっています。利便性が高い地域で、近くには商店街の他、スーパーや病院、公園があり、幹線道路も近くを走っています。利用者は日頃から買い物や公園、囲碁や将棋などに気軽に出かけることができている。地域交流の面では、町内会や商店街の行事に参加したり、中学校の吹奏楽を見学に出かけるなどの交流を行っています。利用者同士の会話も活発で、自由な雰囲気を作っています。また、職員同士もお互いに意見を言いやすい関係ができています。運営法人が多数のグループホームや高齢者福祉施設を運営しており、従業員の研修や能力向上に力を入れています。室内は利用者の作品や写真を飾って家庭的な雰囲気とし、使いやすいトイレも整備しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を意識して日々地域と関わりを持つだけでなく参番館独自の理念を職員皆で作成したことにより、更に入居者様と地域とのつながりを心がけている。	運営法人理念の他に、3項目からなるホーム独自の理念があり、その中で「地域とふれあう」という文言を入れ、地域密着型の理念として確立しています。理念は共用部分に掲示していますが、職員の理念の理解は十分といえません。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理美容店やスーパーなどを活用することにより、地域の一員という自覚を入居者様に持ってもらい、地域にも理解をお願いしている。	地域交流は活発で、町内会や商店街の行事に参加したり、中学校の吹奏楽を見学に出かけています。1階の有料老人ホームに折り紙や歌のボランティアが来訪し、ホームからも利用者が参観しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域包括支援センターらと共に地域の方を対象とした「認知症講演会」を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や地域包括支援センターより近況について伺っている。施設からは高齢者介護の注意点や事故の報告を行っている。	運営推進会議は概ね2ヵ月ごとに開催され、地域包括支援センター職員、町内会役員、利用者家族などが参加していますが、メンバーは固定化していません。また、サービス評価への取り組み状況は話し合われていません。	民生委員や他の家族にも参加を促すなど、参加者の多様化を期待します。また、議事録の内容整備と家族への送付、外部評価結果の会議での報告や話し合いなどを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用状況や事故についての報告により、施設の状態を伝えている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得て意見をもらっています。また、市役所の保護課に利用者の身元引受などの相談を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内における「身体拘束・抑制廃止・虐待防止推進委員会」に職員が参加し、委員会での伝達事項等を他のスタッフに伝えている。	身体拘束は行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルを整備し、定期的に勉強会を行っています。各ユニットからエレベーターホールへは自由に行き来ができ、1階の玄関も日中は施錠していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記委員会における伝達事項や管理者会議における報告などを、申し送りや会議において伝えることで虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内における身体拘束・抑制廃止・虐待防止推進委員会からの資料や成年後見人を活用している入居者様の情報、また研修を通して学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の見学や入居の申し込み、契約の際に不安な点や疑問に思っている点などについての確認を入念に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族様が来訪された際に入居者様の近況について伝えると共に、要望や疑問がないかを確認するとともに、普段からコミュニケーションをしっかりと取って信頼関係を築き話しやすい雰囲気作りを心がけている。	家族の来訪時や介護計画の説明の際に意見を聞いています。一方、家族とのやりとりの記録と共有化は十分といえません。	家族との具体的なやり取りを分かりやすく記録し、職員間で情報を共有化して、介護計画や家族との連絡に適切に反映することを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議を行い、職員からの情報や意見などを聞く場を設けている。	月1回、ユニット毎の会議があり、職員同士、活発な意見交換がなされています。管理者と職員は随時、個別の面談を行っています。また、防災や備品管理、研修、感染症対策など、職員が役割を分担して運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議やカンファレンスの場などで職員の状態を把握し、必要事項については本部や管理者会議での議題としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において、新人研修、リーダー研修、各委員会の活動の活用、管理者会議の活用により育成を心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修や委員会による交流、また外部との合同研修などにより交流機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り話を聞き、その人のためになることができるように努めている。頻回にご本人が思っていることや要望などを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、知人などともコミュニケーションを取ったり、触れ合うことで信頼関係を築いていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の職員と相談しながら、その人に合った支援(サービス)ができるように検討、実施するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人にできることを判断、考慮し、職員と一緒にできるように支援する。その人の役割を作ることで充実した日々を過ごしていただく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その人の普段の様子や状況・要望などの情報を正確に家族に伝え、現状を把握していただくことでよりよい関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様やご家族様からお話を聞き、情報を集めることで馴染みの人や場所などを把握し、できる限り関わっていくことができるよう努めている。	知人が来訪する利用者もおり、電話や手紙のやりとりも支援しています。囲碁や将棋などの趣味を継続している方もおり、近所の美容室を利用したり、商店街や馴染みのスーパーやラーメン店に出かける方の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士良い関係を築くことができるように支援している。入居者様同士が言い合いになった場合、職員が間に入るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による契約終了の際には、入居者様と職員でお見舞いに行くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、家族からの相談には、速やかに対応している。	希望を言葉で表現できる方は少なく、生活歴や家族からの情報をもとに意向を把握しています。センター方式のアセスメントシートを3ヵ月毎に更新し、情報を蓄積し共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取りのほか、入居時には家族からも生活歴をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で入居者様の現在の状態の把握し、記録や申し送りなどによって職員間で話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の活用やケアプランの実施状況により状態を把握し、会議を行い介護計画に反映している。	介護計画は3ヵ月で見直し作成しています。モニタリングとカンファレンスをもとに、次の計画に反映しています。ユニットによってはモニタリングにおける評価の記載やケアプランに沿った日々の記録が十分といえません。	モニタリングにおける評価の記載やケアプランに沿った日々の記録を両ユニットが適切にできるよう、取り組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実施状況は記録し、職員間の情報の共有に活用している。気づいたことは会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	区外の病院の受診の送迎を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや美容室、病院などの地域資源を活用し、入居者様の楽しみにも結び付けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院への受診や往診の活用は、入居者様やご家族の希望に基づいて実施している。	提携医療機関による月2回の往診があり、内科以外の科目や他のかかりつけ医を受診する場合もホームで通院を支援しています。受診内容を個人毎に記録し、必要に応じて家族に報告しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診日の前日に看護師と連絡を行い入居者様の状態を報告している。 体調が優れない際には、状態の報告を行い、緊急の往診や薬の処方をしていただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も一人一人の病歴、お薬などを記載したファイルを持参し、病院関係者との情報交換をスムーズに行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期が近くなられた方については医師と家族と施設との話し合いを行い、その入居者様にとって最善の方法を考え行っている。	利用開始時に重度化した場合のホームの方針を本人、家族に説明しており、重度化した場合は医師からも説明してもらうこととしています。ホームでの医療行為が難しいこともあり、過去に看取りは経験していません。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDを設置し研修も行っている。その他研修にも参加しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施、スプリンクラー設置、緊急通報システムの登録、災害時に必要な物品を揃え、各階ごとに用意している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防や地域の協力のもと行っています。通報装置の通報先に地域の方も登録しています。職員の救急救命訓練も定期的受講されており、災害時の備蓄品は現在準備中のものも含め準備しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の居室に入る際には、声掛けし断ってから居室に入るようにしています。 笑顔で優しい声掛けを心掛けている。	「さん」づけを基本に本人が希望する呼びかけを行い、利用者への対応で気になる点があればすぐに注意するようにしています。記録類はロッカーに保管し、個人情報を守れるよう管理しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々のお話の中から希望するものを伺い知り、入居者様と供に出掛けたりし、自分の好みの物を購入して頂いたり、外出を楽しんでいただいています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など以外は居間でテレビやビデオをご覧になったり、居室にて過ごされたり、家事のお手伝いをされたり、自由に過ごしていただき、希望に沿って支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際にはご本人に選んでいただいたり、パーマや髪染めも美容院に出掛け、楽しんでいただいております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入や調理、盛り付けや片付けを会話を楽しみながら行っていただき、また職員も見守りつつ、共に活動や食事をしております。	利用者が能力に応じて、調理や盛り付け、下膳、後片付けなどを手伝っています。献立はホームで作成しており、栄養管理に配慮しながら、利用者の希望を取り入れています。職員も一緒に楽しく食事をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の身体状況を踏まえて量や食事形態を変えて食べていただいております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援を必要とされる入居者様に対しては毎食後、またそれ以外の入居者様に対しては最低夜に一度は声掛けを行い、口腔ケアをいただいております。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗のある方に対しては定時のトイレの声掛けや誘導を行っております。	全員の排泄記録を「総合記録シート」に記録し、パターンを把握しています。利用者の3割をトイレ誘導しており、誘導の際は羞恥心に配慮し、耳元でさりげなく誘導しています。夜間もなるべくトイレでできるよう、パターンに沿って誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に配慮するほか、野菜の摂取やゼリーの活用などを行っております。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	男性が入浴される曜日や女性が入浴される曜日の設定はありますが、体調や行事などを踏まえながらシャワー浴や別の入浴日を設定しております。	曜日を限定せず、利用者の希望に応じて週2回程度、午後の時間帯で入浴しています。入浴を拒む利用者にはタイミングを替えて誘ったり、シャワー浴や清拭で対応しています。利用者の安心のため、同性介助や2人介助も行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は充実感や達成感を持っていただけるような活動を行っていただきますが、体調などをふまえて昼寝なども行っております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を記載した用紙を用意したり、受診時の薬の説明を受けた際には、通院記録などに記載するようにしております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、カルタ、折り紙などのほか、家事活動を職員と共にいただいております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けなような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や美容室などへの外出支援を行っている。天気が良い日は、近所の公園へ行き、気分転換を図っている。	日常的にホームの周辺の商店や公園などに出かけています。喫茶店やラーメン店、囲碁や将棋クラブなどへの個別の外出も支援しています。年間行事では、雪まつり見学、花見、よさこい祭り見学、紅葉見物、温泉旅行などの同行支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時には、お金をお渡しし、買い物時などの支払いの際には、本人の能力に応じて必要時支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には職員が付き添い、電話を掛けていただくなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の照明については、暖色系の電球を使用し、落ち着いた空間作りに努めている。また、室内装飾は季節に応じた雰囲気作りを行っている。	共用空間は家庭的で、利用者の作った塗り絵や行事での写真、季節の装飾が飾られています。台所から居間全体を見渡すことができます。また、温度や湿度、明るさも調整され、快適に過ごすことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ周辺にソファを設置し、テレビをご覧になったり、入居者様同士での会話ができる空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は慣れ親しんだ、馴染みの家具等を持参していただき、居心地の良い安心できる居室内にしている。	居室内は広く、利用者の使い慣れたベッドや家具、テレビや仏壇などを自由に持ち込んでおり、家庭と同じようにくつろぐことができます。壁にも写真、カレンダーなど、好みのものを自由に飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表札を提示し、入居者様がわかりやすい環境作りを行っている。		